

看護，在宅と ICT について

Nursing, Home nursing and ICT

坪田康佑

Kosuke Tsubota

一般社団法人医療振興會

KEYWORDS

- 看護
- D to P with N
- 在宅

ICT の普及により，看護師の働き方も変化してきている。看護師の職場は，病院内に限らず，高齢者施設や保育園や保健所等多岐に渡る。本稿ではその中でも，在宅分野での活用を例にとり，看護分野における ICT の活用に触れる。

はじめに

看護師の定義は，看護師の法律である保健師助産師看護師法(昭和 23 年法律第 203 号)の第五条で「厚生労働大臣の免許を受けて，傷病者若しくはじょく婦に対する療養上の世話又は診療の補助を行うことを業とする者という」とされている。

そのために，現代では大きく 2 つに分けると「診療の補助」の部分が病院や医療機関等の医療機関・医療保険内での役割で，「療養上の世話」が高齢者施設・介護保険内での役割となる。そのような背景から，訪問看護は唯一，医療保険と介護保険を使える業態となっている。

IoMT (Internet of Medical Things) によるウェアラブルデバイスでバイタルサイン測定の実施と記録がされるようになることを筆頭に，診療の補助の分野での ICT (Information and Communication Technology) 化は加速してきている。それに伴って，いち早く IoMT の導入を開始した病院単位での看護師の役割に関する変化は起きている。

個々の事例だけではなく，国としても，2020 年から厚生労働省の看護関係予算で ICT に関する予算が増えてきており，2021 年度の厚生労働省の看護関係予算で

は，新型コロナウイルス感染症の影響も踏まえて，看護師養成所での ICT 整備に関する予算が新設された¹⁾。臨床現場だけではなく，教育現場にも予算配分されるようになってきた。教育機関の変化は，看護師の文化の変化に直接影響することから，ICT の活用が当たり前になる世界がより早く近づいてくることが予想される。また，看護関係予算だけではなく，2021 年 4 月に行われた，介護報酬改定では，基本報酬の見直しの際に，大臣折衝事項として「ICT 化の促進を行う」が加わったことから大きく ICT 活用が推進されている²⁾ (図 1)。

1 ICT とは

IoT (Internet of Things) は，人を介さずにモノが自動的にインターネットとつながる技術を指す。一方 ICT は，人とインターネット，人と人がつながる技術のことである。

訪問看護の分野で ICT の活用も看護の定義と同様に，診療の補助と療養上の世話に大きく分かれる。診療の補助としてオンライン診療の D to P with N，療養上の世話として訪問看護で活用される ICT の事例を取り上げる。